

2007年3月期
中間期決算説明会

2006年11月1日
ヤマハ株式会社

2007/3期 上期決算の概要



上期の状況

■ 対前年同期増収営業減益。対当初予想(4/28)営業増益

- ・売上高 対前年同期 +73億円 ……楽器(+66)
対当初予想 ▲5億円 ……電子機器・金属(+11)、リビング(+10)、楽器(▲26)
- ・営業利益 対前年同期 ▲6億円 ……楽器(+29)、電子機器・金属(▲29)、リビング(▲6)
対当初予想 +28億円 ……楽器(+16)、電子機器・金属(+15)

■ 高雄ギター工場解散費用(▲17億円)を特別損失に計上

■ 中間純利益は持分法投資利益の増加に伴い、対前年同期、当初予想とも増益

■ 上期末在庫は、前年同期並み水準(但し、為替影響を除けば、実質36億円の減少)

2Qの状況

■ 2Qは前年同期に対し、増収営業減益

- ・売上高 対前年同期 +47億円 ……楽器(+40)
- ・営業利益 対前年同期 ▲4億円 ……楽器(+15)、電子機器・金属(▲16)

2007/3期 上期業績



▶ 対前年同期、増収営業減益。対当初予想減収増益

	06/3 (上期) 実績	07/3 (上期) 実績	前年 同期比	07/3 (上期) 当初予想	予想比	(億円) (2Q) 実績
売上高	2,572	2,645	+2.8%	2,650	▲0.2%	1,378
営業利益 (営業利益率)	144	138 (5.2%)	▲3.7%	110	+25.8%	71
経常利益 (経常利益率)	213	229 (8.7%)	+7.5%	170	+34.9%	102
当期利益 (当期利益率)	165	175 (6.6%)	+5.7%	140	+24.8%	75
持分法損益	85	102		78		38

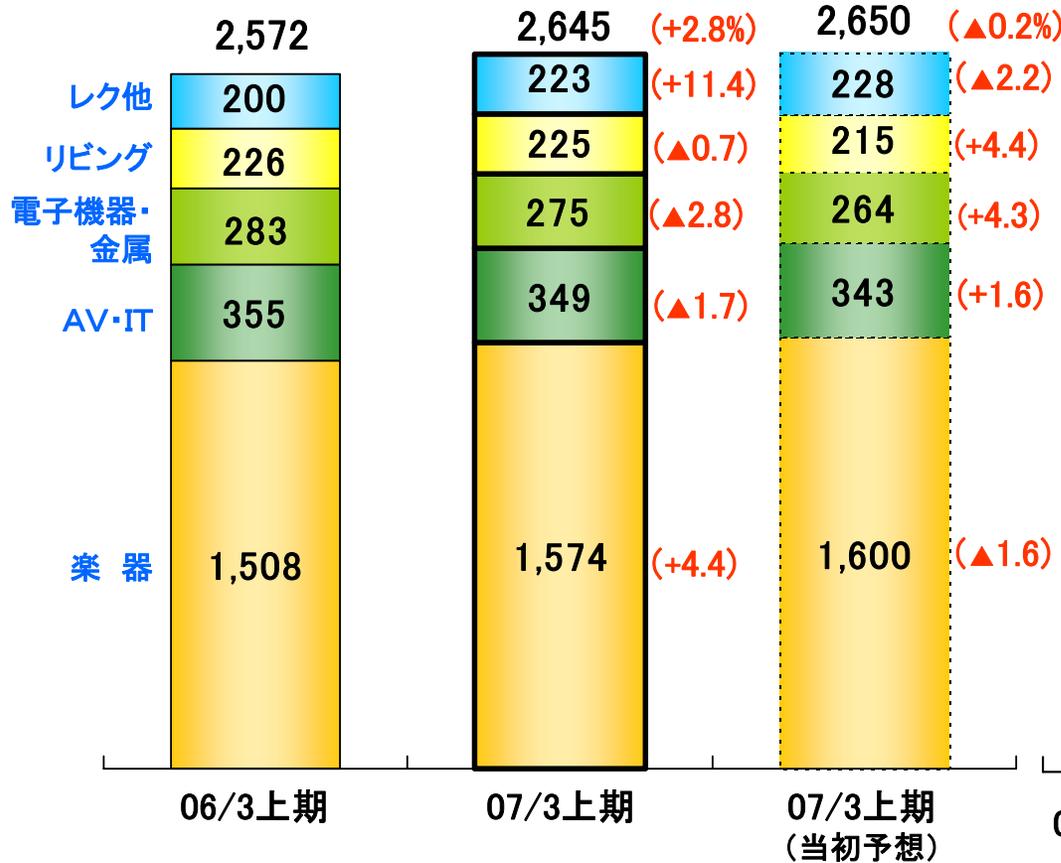
為替レート

売上高	US\$	110	115	115
	EUR	136	146	134
利益	US\$	110	115	115
	EUR	134	140	134

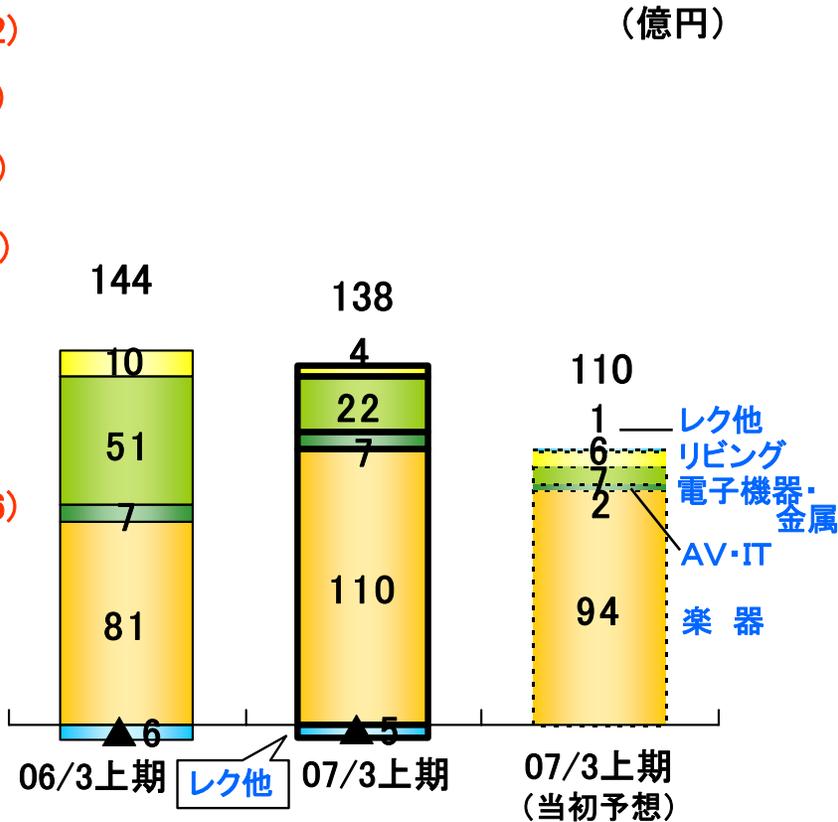
2007/3期 上期事業別業績



売上高



営業利益



()内は前期比
または
当初予想比

前年同期との比較での為替影響は+77億円
(楽器+59億円、AV・IT+18億円)
また、当初予想との比較では+42億円
(楽器+32億円、AV・IT+10億円)

前年同期との比較での為替影響は+26億円
(楽器+25億円、AV・IT+2億円、電子機器・金属▲1億円)
また当初予想との比較では+16億円 (楽器+12億円、AV・IT+4億円)

2007/3期 通期業績予想



➤ 通期売上高、営業利益据置。経常利益、当期利益を上方修正

(億円)

	06/3実績			07/3予想			伸び率 (当初予想)
	上	下	計	上	下	計	
売上高	2,572	2,769	5,341	2,645	2,815	5,460	+2.2% (5,460)
営業利益 (営業利益率)	144	97	241 (4.5%)	138	112	250 (4.6%)	+3.7% (250)
経常利益 (経常利益率)	213	139	352 (6.6%)	229	151	380 (7.0%)	+8.0% (350)
当期利益 (当期利益率)	165	116	281 (5.3%)	175	115	290 (5.3%)	+3.2% (280)

持分法損益 85 63 148 102 71 173

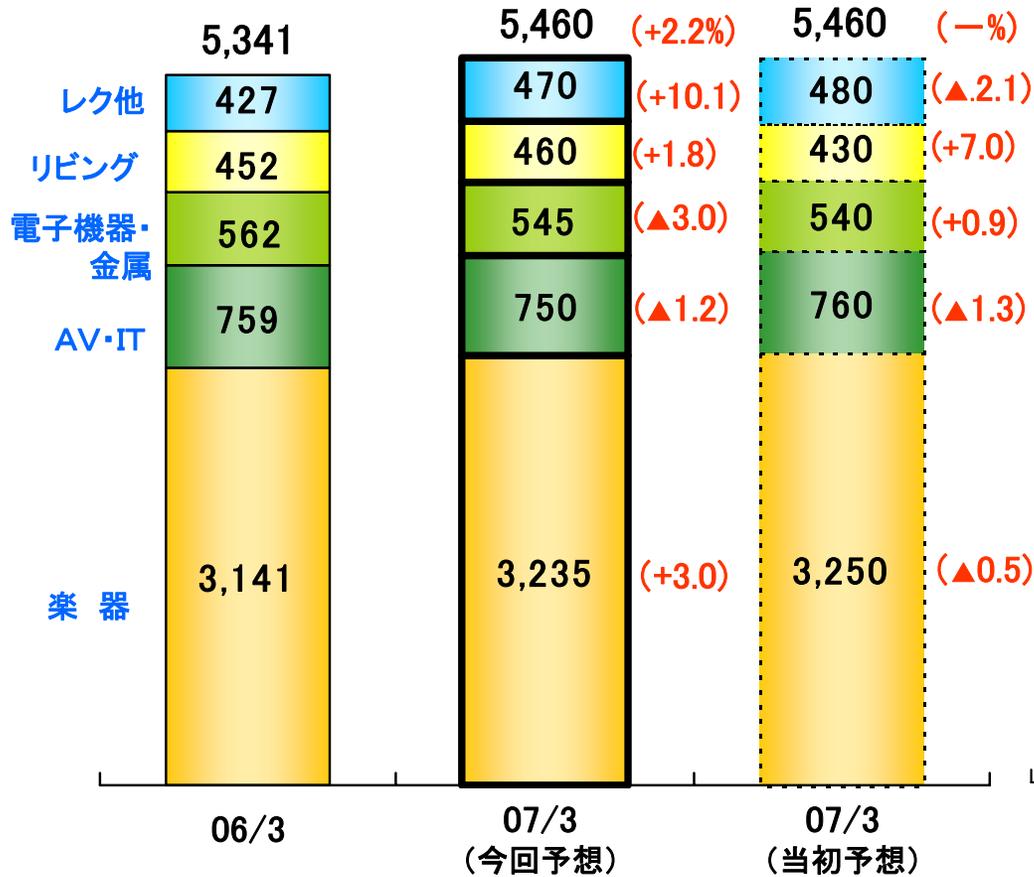
為替レート

売上高	US\$	110	117	113	115	115	115	115
	EUR	136	140	138	146	141	143	134
利益	US\$	110	116	113	115	115	115	115
	EUR	134	136	135	140	141	141	134

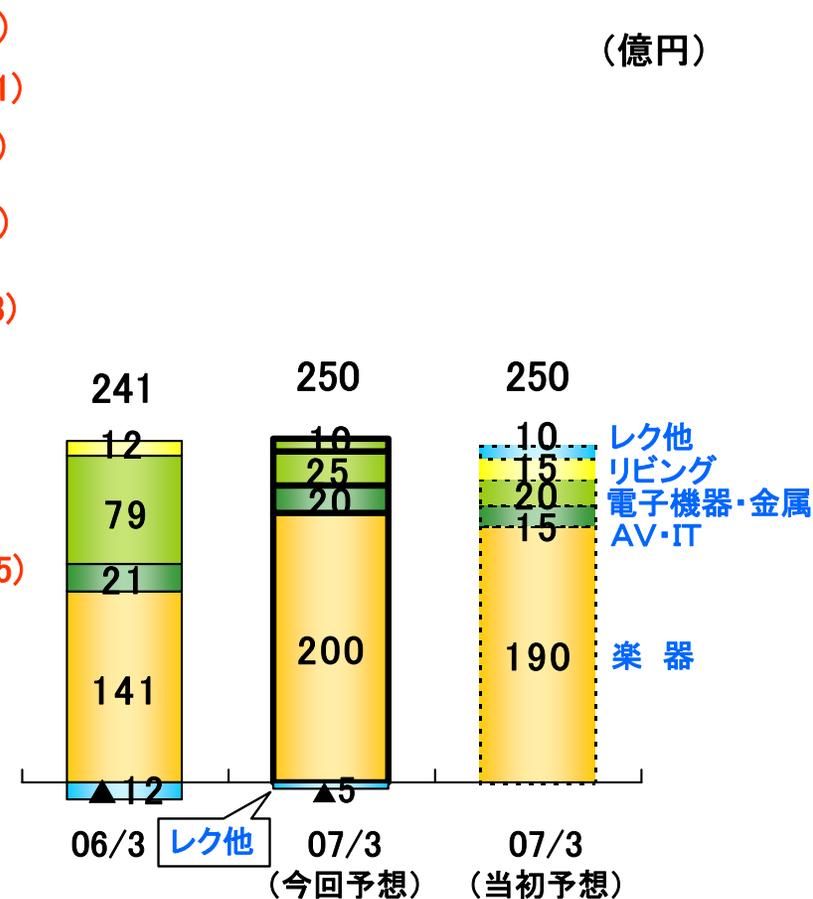
2007/3期 通期事業別業績



売上高



営業利益



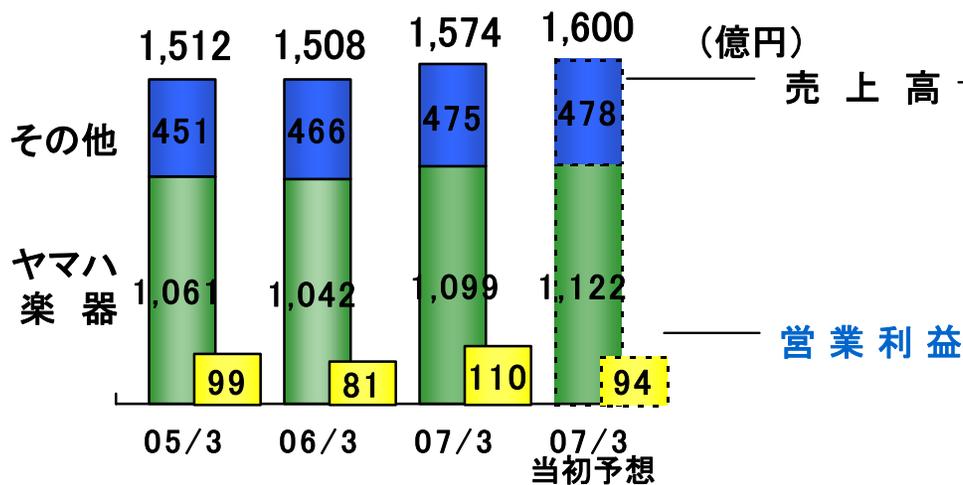
()内は前期比

前期との比較での為替影響は+62億円
 (楽器+47億円、AV・IT+15億円)
 また、当初予想との比較では+61億円
 (楽器+45億円、AV・IT+16億円)

前期との比較での為替影響は+38億円
 (楽器+32億円、AV・IT+6億円)
 また、当初予想との比較では+29億円
 (楽器+22億円、AV・IT+7億円)

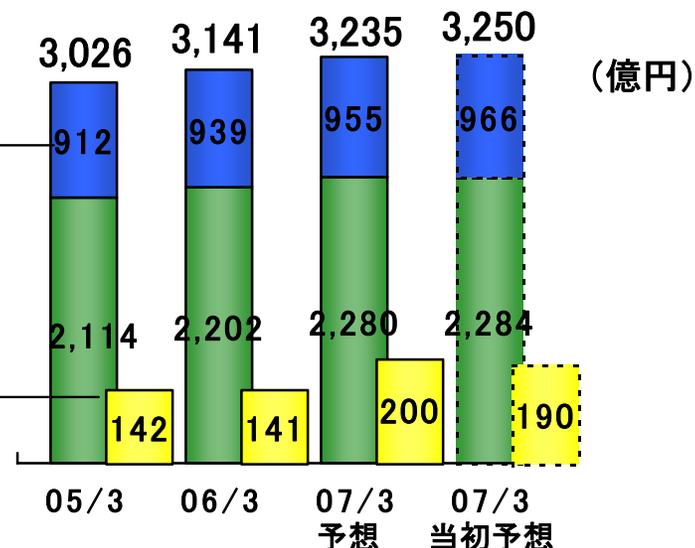
上期の状況

- ・対前年同期増収増益。当初予想との比較では減収増益。
- ・為替影響を除いた実質売上高は、ほぼ前年同期並み。国内売上高はエレクトーンを中心に、減収傾向継続
- ・当初予想に対しては、3.6%の減収。特にアメリカ市場では、期初の流通在庫調整影響もあり、期待値を下回った。韓国、中国は引続き好調
- ・商品別には管楽器、PA機器が好調継続
- ・営業利益は、材料価格の上昇はあるものの、為替益に加え売上構成の変化による売上総利益率の改善、コスト削減効果等により対前年同期、当初予想とも増益
- ・為替影響を除いた上期末在庫はほぼ計画レベル。



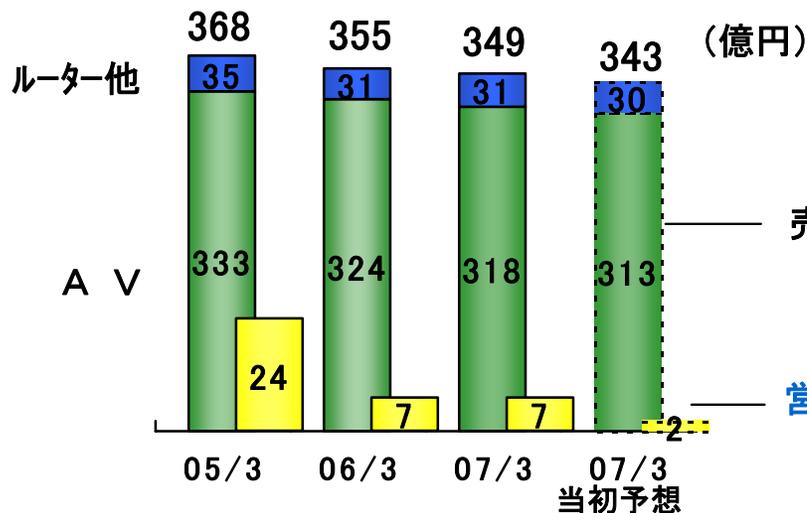
通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績予想を売上高 3,235億円、営業利益200億円へ修正
- ・欧米市場での高額品(自動演奏付ピアノ、グランドピアノ)拡販
- ・欧米年末商戦に合わせた新商品の確実な市場導入
デジタルミキシングコンソールLS9シリーズ
普及価格帯サイレントピアノ
黒ポリエステル外装クラビノーバ
- ・国内市場活性化
デュアルマニュアルキーボードD-DECK
アップライトピアノ「YUS」シリーズ
- ・拠点再編を含めた製造構造改革のスピードアップ



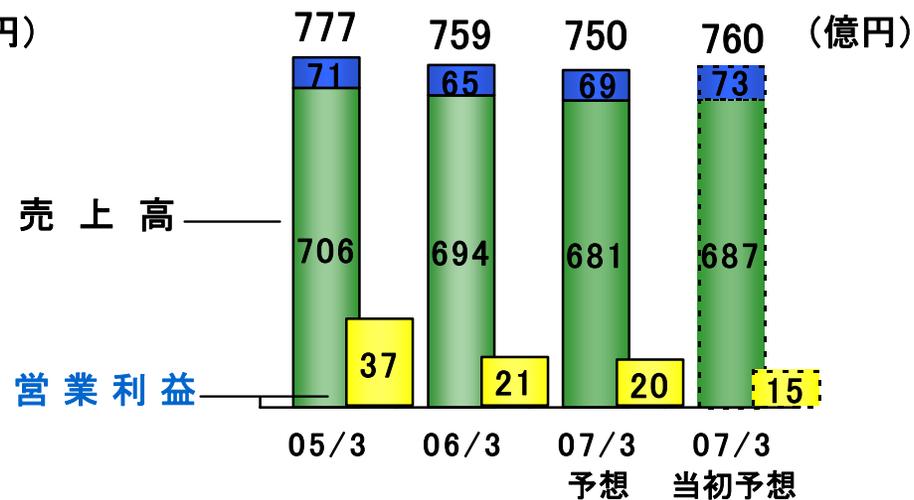
上期の状況

- ・ 対前年同期では減収営業益微増。対当初予想では増収増益
- ・ 為替影響を除いた実質売上高は前年同期比6.8%の減収。AVは北米中心に堅調に推移するものの、通信カラオケ機器が大幅な売上減少。
- ・ 当初予想に対しては実質1.2%の減収。AV国内市場の不振が主因
- ・ 営業利益は、ユーロ高に伴う為替益の発生もあり、対当初予想増益
- ・ 「YSP」は欧米を中心に出荷順調(上期売上高は対前年同期倍増の30億円)
- ・ 上期末在庫は、為替影響を除いた実質ベースでは、ほぼ当初予想並みの水準



通期の状況と下期の重点施策

- ・ 通期売上予想を10億円下方修正し750億円の計画 営業利益は20億円へ上方修正
- ・ AV事業の成長継続
 - 「YSP」新モデル導入で更なる拡販
 - AVレシーバー強化
 - 新スピーカーSoavoシリーズ拡販
 - 新領域商品の市場導入
- ・ ルータービジネス強化拡大
- ・ 会議システムの認知度向上と販路開拓によるスムーズな市場導入

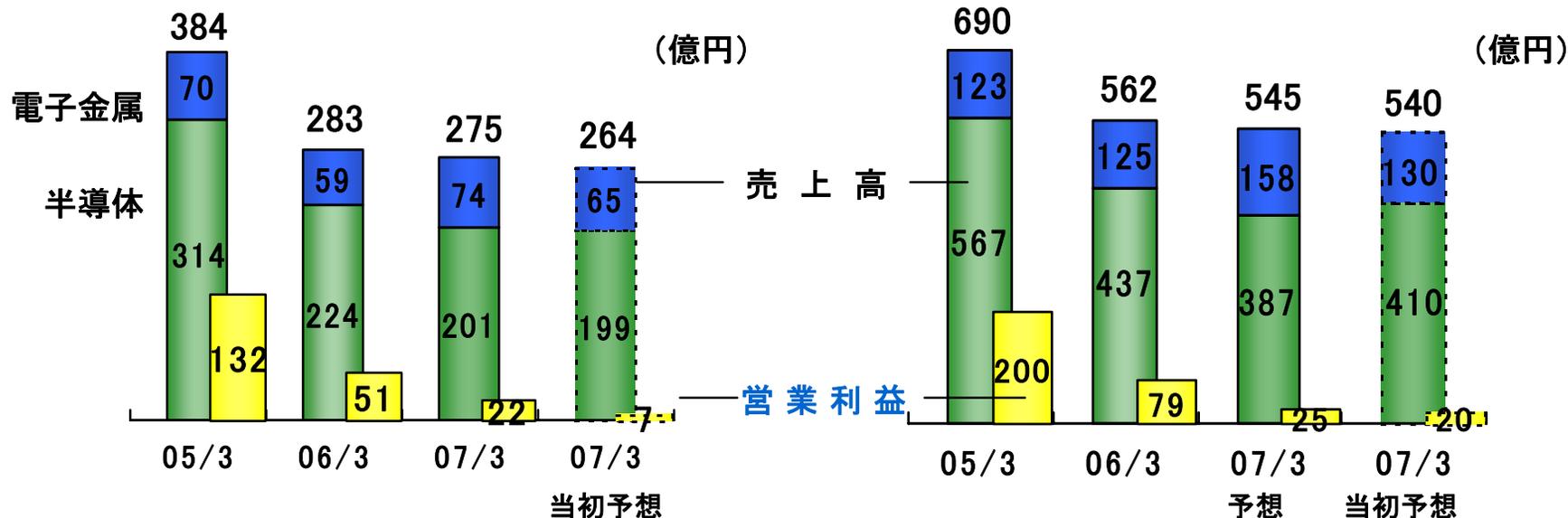


上期の状況

- ・ 主として、携帯電話用音源LSIの需要減少に伴い対前年同期減収減益
- ・ 対当初予想では、商品構成の変化で比較的収益性の高い商品が伸長し、増益達成
- ・ 電子金属は、材料価格の上昇に伴う価格転嫁により対前年同期、当初予想とも増収

通期の状況と下期の重点施策

- ・ 携帯電話用音源は高機能商品拡販によるシェア確保
- ・ アミューズメントなど携帯用以外の既存LSIの拡販
- ・ 新デバイスの開発と市場導入
- ・ 電子金属材料は製造原価低減による収益力強化

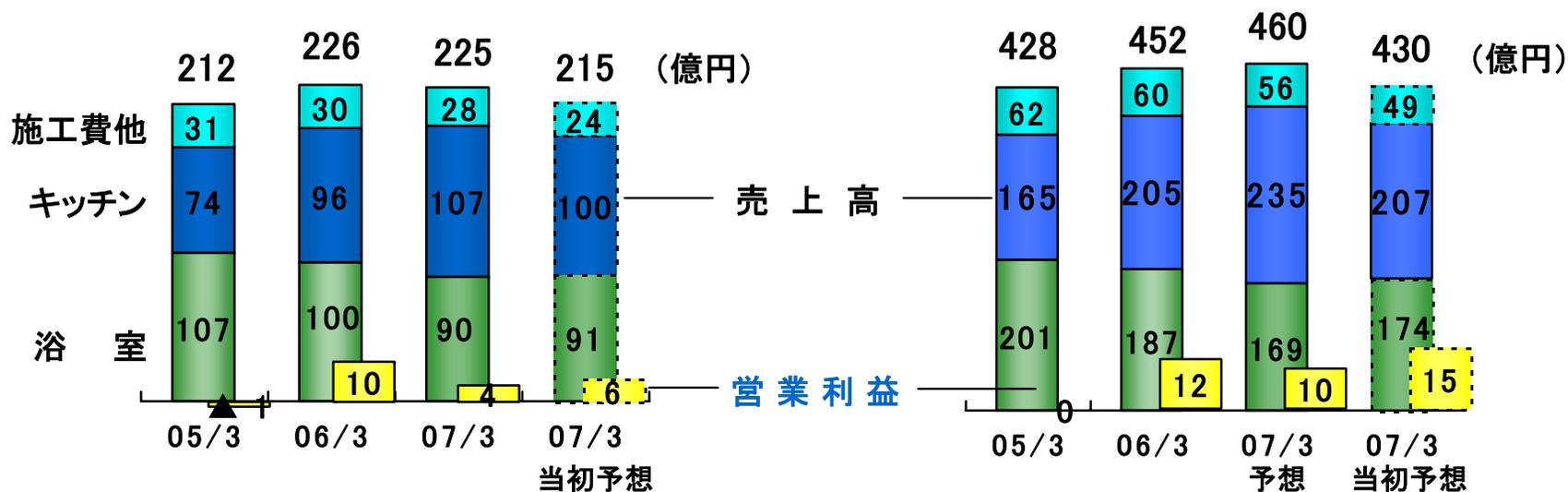


上期の状況

- ・ 売上高はほぼ前年同期並み
- ・ システムキッチン、マーブル戦略奏功し、引続き好調維持。浴室は価格競争激化
- ・ 営業利益は、浴室の単価ダウンに伴う売上総利益率の低下で、対前年同期、当初予想とも減益

通期の状況と下期の重点施策

- ・ 通期業績予想は対当初予想増収減益の計画
- ・ 10月発売の普及価格新システムキッチンを軸にリフォーム販路等の新規顧客の開拓
- ・ ヤマハの強みとしての「マーブルクラフト」戦略の浸透、強化
- ・ 製造改革の一層の推進によるコスト競争力の強化

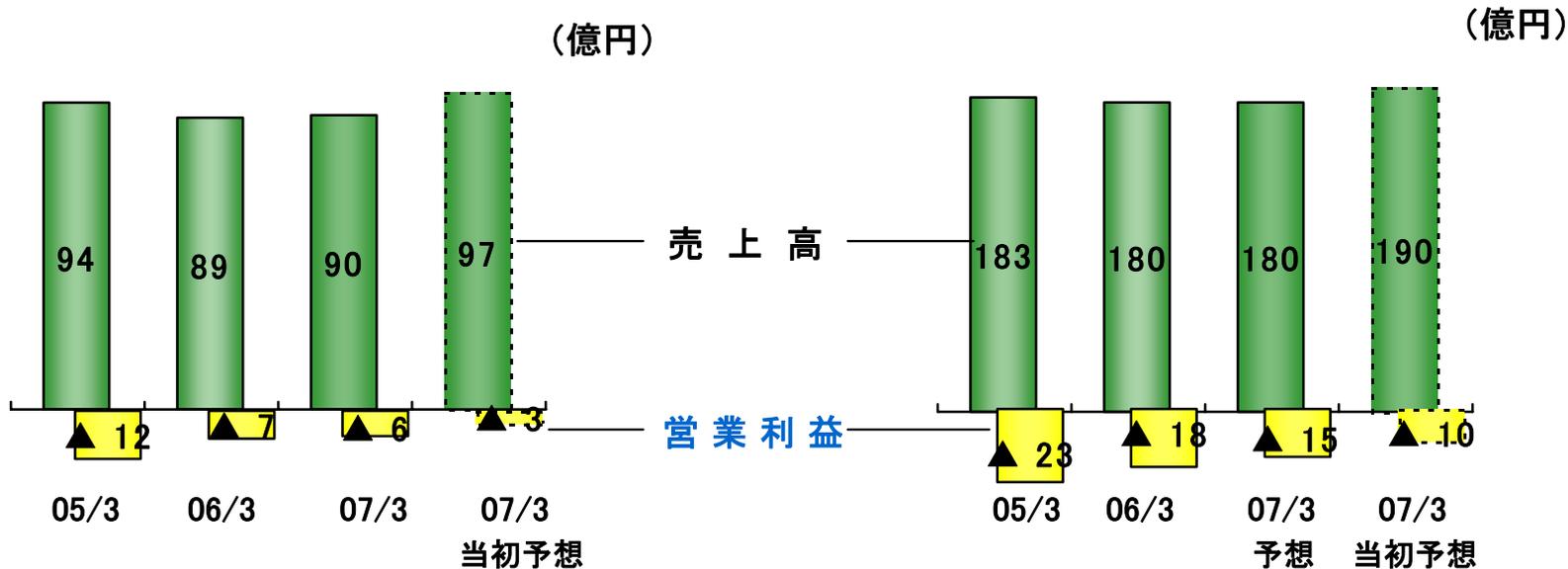


上期の状況

- ・ 売上高は期待値を下回ったものの、対前年同期では、宿泊、日帰り客数とも増加。ブライダル減少
- ・ 施設別では、「つま恋」、「葛城」が宿泊を中心に堅調
- ・ 営業利益は減価償却費の減少で対前年同期では改善となったが、対当初予想では損失幅拡大

通期の状況と下期の重点施策

- ・ 通期業績予想を下方修正
- ・ 施設ごとの特色を活かした企画提案による集客確保施策展開と一層の営業効率向上による収益改善

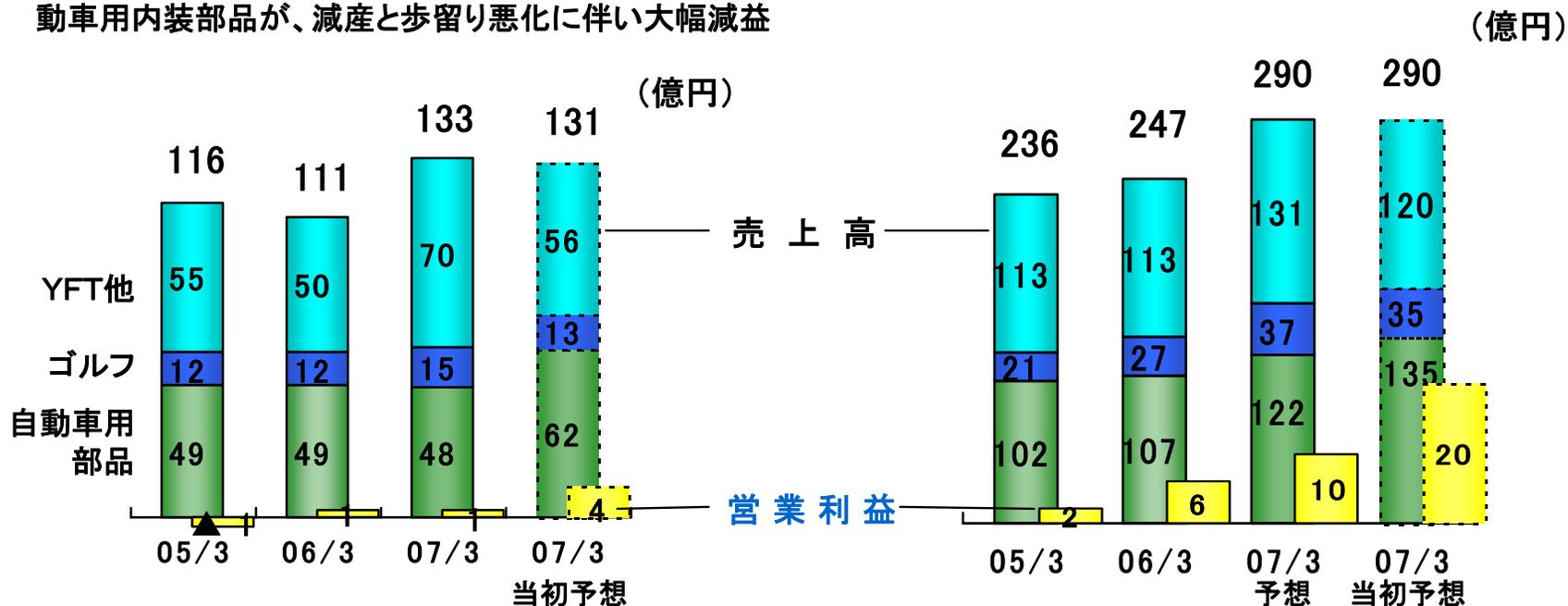


上期の状況

- セグメント全体では対前年同期増収。対当初予想では増収減益
- ゴルフ、Mg部品は対前年同期、対当初予想とも増収。ゴルフは韓国向けが大きく伸長、Mg部品はデジタルカメラ用途に安定的な受注
- 一方、自動車用内装部品は、主力完成品メーカーのオーダー先送りで対当初予想、大幅な減収
- 営業利益は、ゴルフ、金型・部品が当初予想増益。自動車用内装部品が、減産と歩留り悪化に伴い大幅減益

通期の状況と下期の重点施策

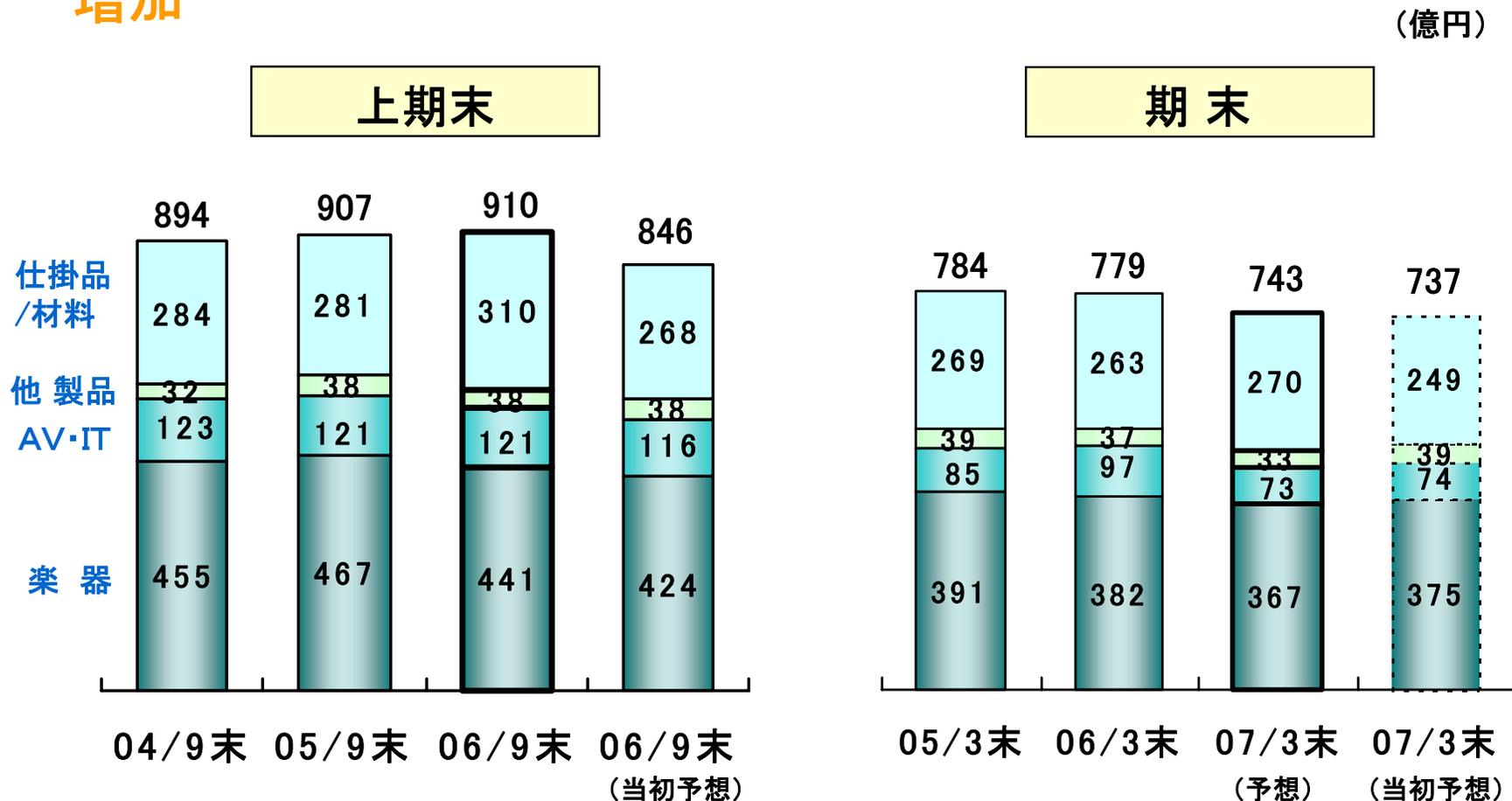
- 通期営業利益予想を下方修正
- 自動車用内装部品は増産対応と歩留りの改善金型・部品は製造原価の低減と受注変動対応力の強化
- ゴルフはブランド認知度の更なる向上と新製品の着実な市場導入



棚卸資産



- 為替影響を除いた上期末実質在庫高は対前年同期減少。
当初予想に対しては仕掛品、材料の増加で実質30億円の増加



予想貸借対照表



(億円)

	05/3末	05/9末	06/3末	06/9末	07/3末
現預金	512	313	364	350	357
売上債権	716	814	703	857	740
棚卸資産	784	907	779	910	743
他流動資産	244	246	248	255	216
固定資産	2,800	2,938	3,106	3,192	3,280
資産計	5,056	5,218	5,200	5,564	5,336
仕入債務	377	418	372	435	352
借入金	466	468	285	392	255
他負債	1,423	1,306	1,338	1,307	1,328
資本計	2,790	3,026	3,205	3,370	3,401
負債・資本計	5,056	5,218	5,200	5,564	5,336

下期の重点商品(1)



●アップライトピアノ

『YUS』、『YU』 2シリーズ

アップライトピアノの基本ラインアップを5年ぶりにモデルチェンジ。
9月末から順次発売。初年度国内12,000台 海外11,000台目標



YUS5

●欧米向け普及価格帯アップライトピアノ

欧米ではインドネシア、中国製普及価格帯モデルを各々発売。
エントリー層での拡販期待。初年度販売目標合計3,000台

●デュアルマニユアルキーボード

『D-DECK』

キーボーディストのための新しい電子鍵盤楽器の提案
ライブに映えるフォルムと高度な演奏表現を実現。

国内市場で11月より発売 初年度5,000台

DDK-7 399,000円



D-DECK

●デジタルミキシングコンソールLS9シリーズ

高機能、高音質を実現した軽量コンパクトなライブ用デジタル
ミキサー。下期販売目標21億円

LS9-32 1,354,500円 10月発売

LS9-16 724,500円 10月発売



LS9

下期の重点商品(2)



●デジタルサウンドプロジェクター「YSP」シリーズ

薄型テレビ時代の薄型ホームシアターとして好評を博しているヤマハデジタルサウンドプロジェクター。「YSP1000」の後継モデルとして11月発売の「YSP1100」。簡単操作で理想のホームシアター環境をつくる。新「インテリビーム」と、視聴位置に音声を届ける「マイビーム」機能を搭載。YSPシリーズで12万台(年間)の出荷を予定。



YSP1100

●システムキッチン

美しさと使いやすさを両立させたマーブルシンク搭載システムキッチン。ヤマハ独自の人造大理石の特徴を最大限に活かし、熱や衝撃、汚れに強く、お手入れも簡単。カラーバリエーションも豊富。



berry 「マーブルファミリーシンク」追加タイプ

付属資料

2007/3期 上期営業外損益、特別損益



06/3(上期)実績

07/3(上期)実績

07/3(上期)当初予想

営業外損益

(億円)

持分法利益	85	102	78
金融収支	0	2	▲2
その他	▲16	▲13	▲16
計	+69	+91	+60

特別損益

固定資産処分損益	5	▲6	▲1
その他	3	▲15	1
計	+8	▲21	0

・高雄ヤマハ解散費用 ▲17

法人税他

法人税等	53	30	27
少数株主持分	3	3	3
計	56	33	30

2007/3期 通期営業外損益、特別損益



	06/3実績	07/3今回予想	07/3当初予想
			(億円)
営業外損益			
持分法利益	148	173	148
金融収支	▲ 2	▲ 2	▲ 7
その他	▲35	▲41	▲41
計	+ 111	+ 130	+100
特別損益			
固定資産処分損益	▲ 2	▲ 6	▲ 3
その他	8	▲14	3
計	+ 6	▲20	0
		・投資有価証券損益 5	・高雄ヤマハ解散費用 ▲17
法人税他			
法人税等	72	65	64
少数株主持分損益	5	5	6
計	77	70	70

設備投資・減価償却費/研究開発費



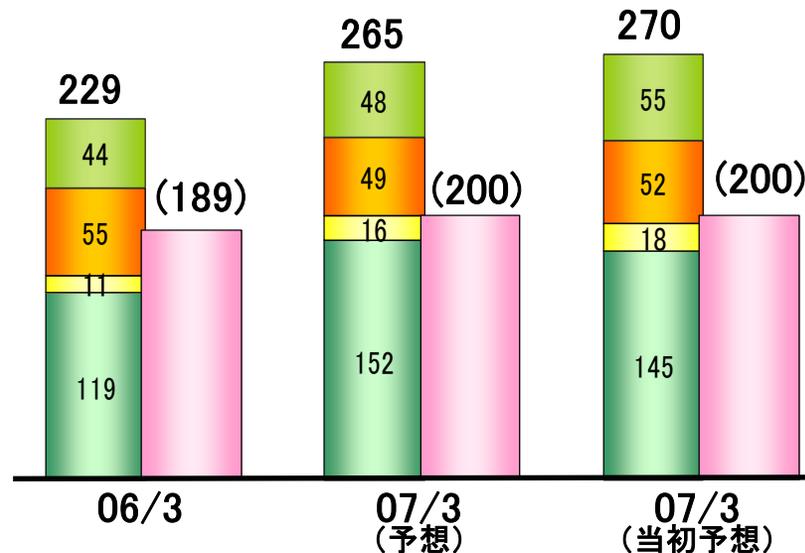
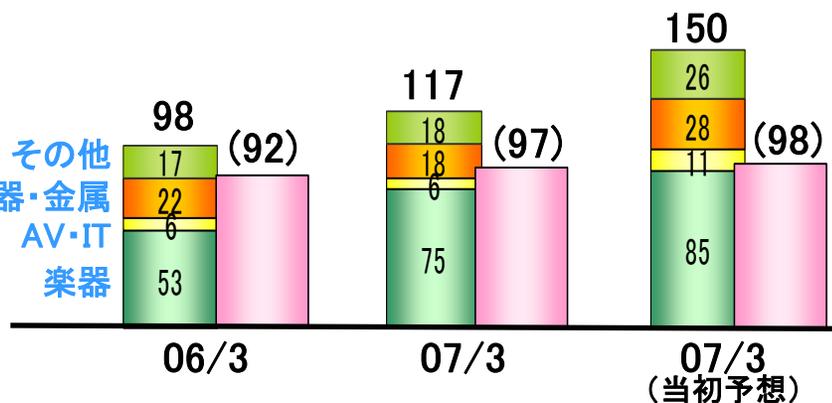
設備投資・減価償却費

上期

通期

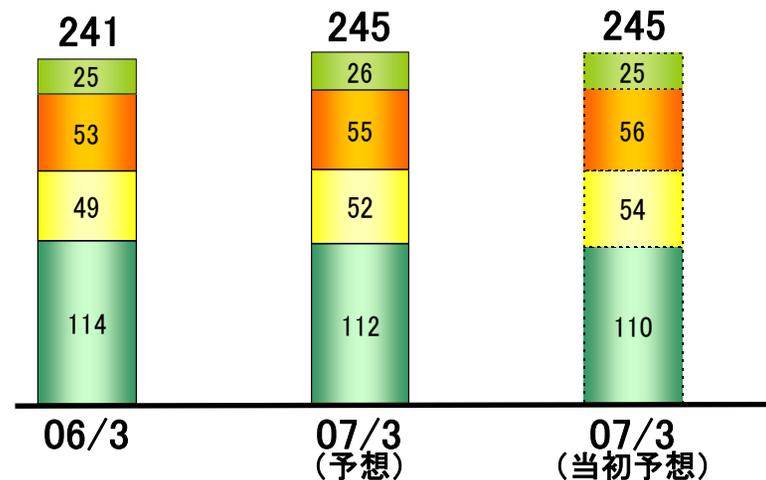
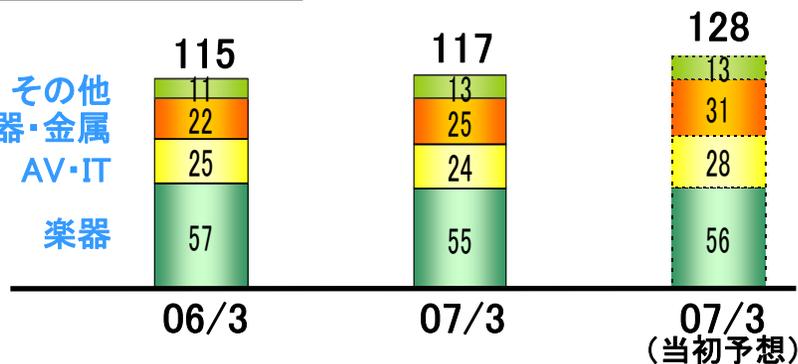
(億円)

その他
電子機器・金属
AV・IT
楽器



研究開発費

その他
電子機器・金属
AV・IT
楽器

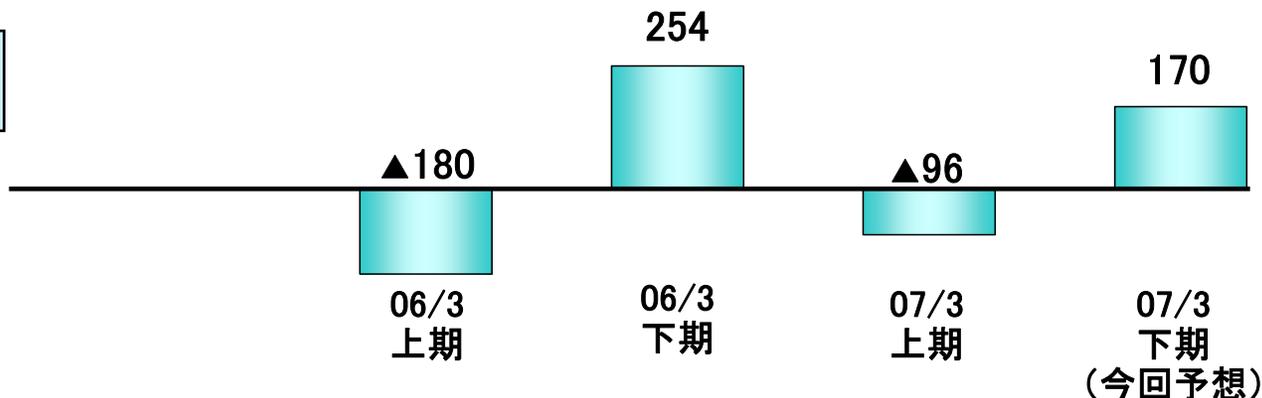


実質有利子負債



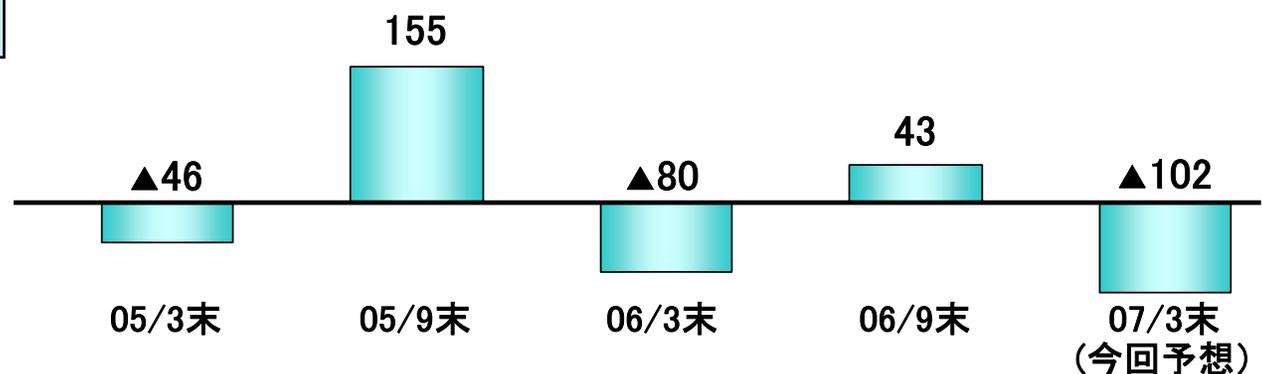
(億円)

フリーキャッシュフロー



実質有利子負債

長短借入金 — 現預金



* 上記の他に

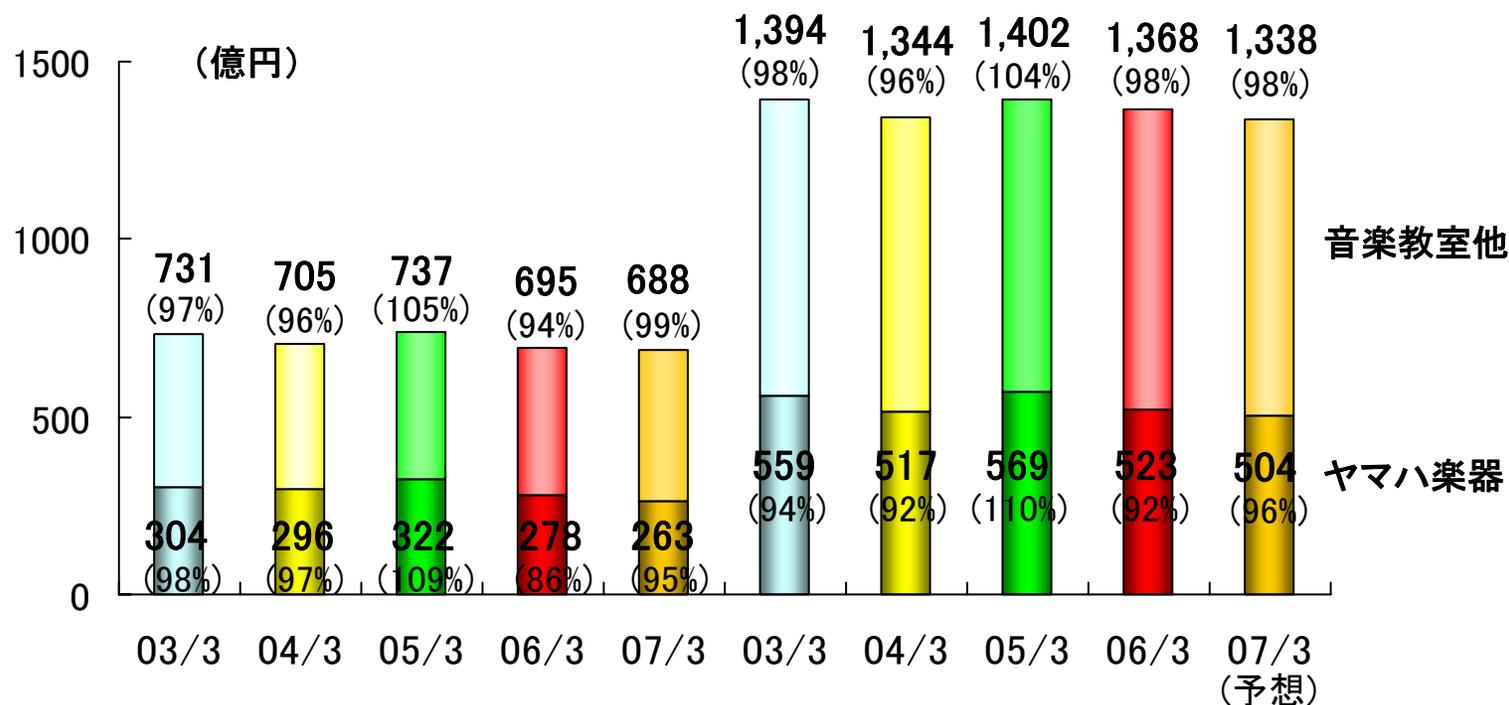
リゾート預託金残高

05/3末	289	05/9末	280	06/3末	276	06/9末	270	07/3末 (今回予想)	268
-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------------	-----

日本市場のヤマハ楽器販売状況



前期に続き、エレクトーン減少し、上期の売上高は前年同期比99%の水準。ピアノ新商品「YU」シリーズ、「YUS」シリーズや新概念キーボード「D-DECK」で反転期待



上期実績

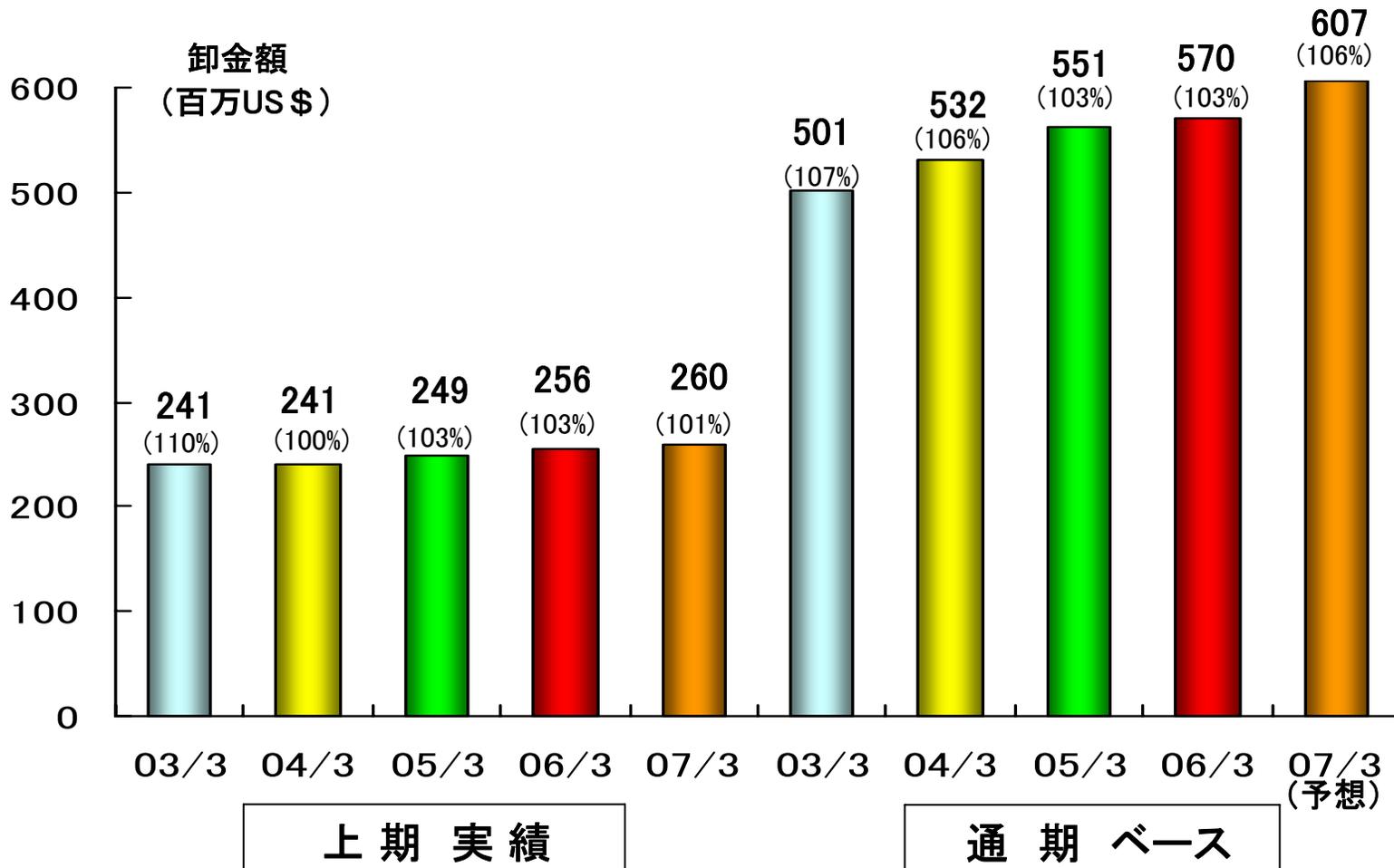
通期ベース

()内は前年同期比

アメリカ市場のヤマハ楽器販売状況



ピアノ市況厳しく、上期で計画割れとなるものの、徐々に回復基調。また、流通在庫も徐々に改善してきており、年末商戦に期待。ポータブルキーボード、管楽器が前年同期比110%と好調。重点商品のPA機器は前年同期比126%と引続き伸長。

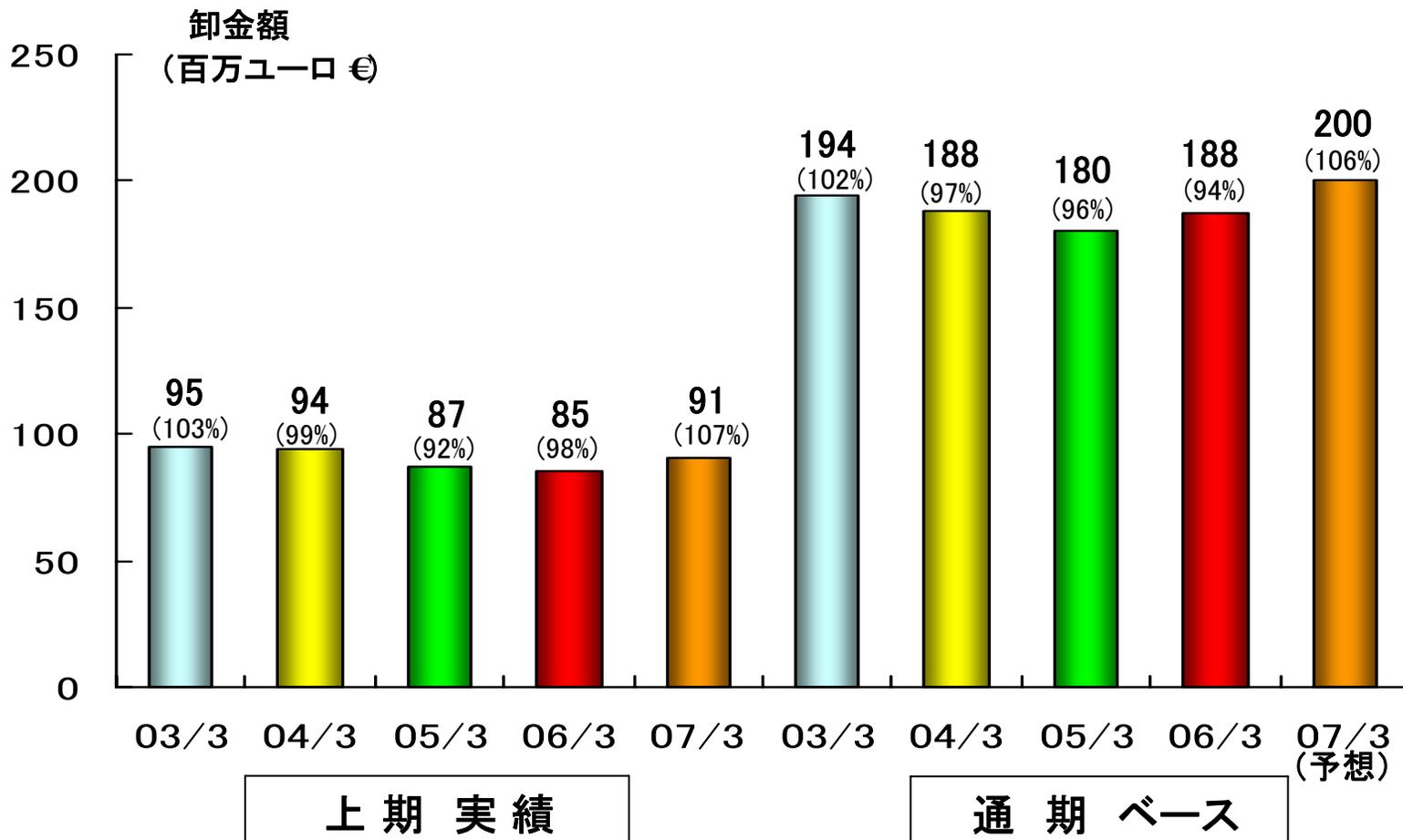


()内は前年同期比

ドイツ市場のヤマハ楽器売上推移



市場は安定傾向続く。ピアノ・管楽器の販売は前年同期比105%。年末に向け高性能キーボード「Tyros2」の販促策を強化。来年からのVAT引き上げ前的高级品受注を期待。

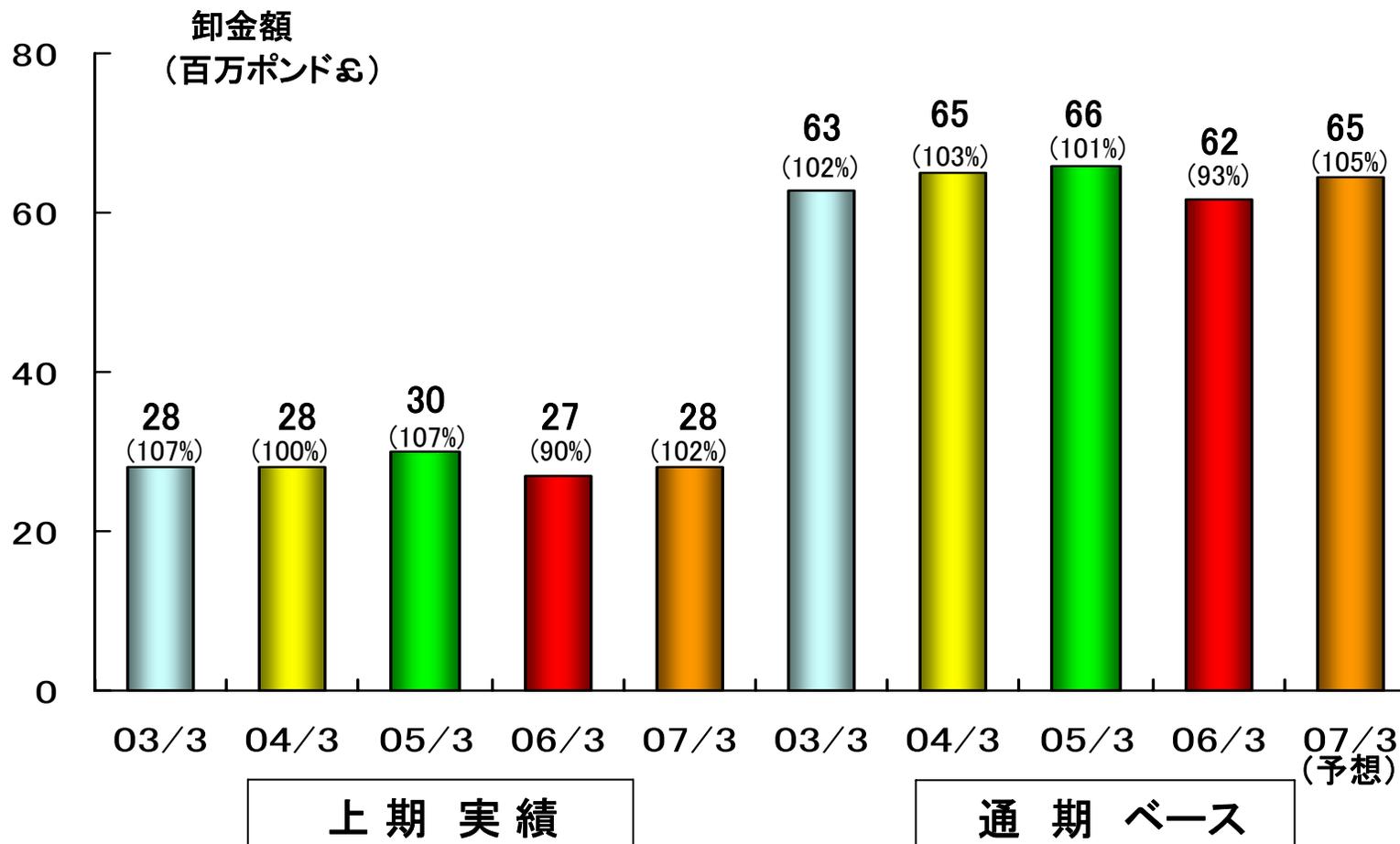


()内は前年同期比

イギリス市場のヤマハ楽器売上推移



市場は回復基調。ピアノ・電子楽器・ギターなどが対前年同期比110%弱で好調を維持するものの、PAが対前年同期比90%と不振。年末は新ミキサー「LS9」他新製品で挽回を期待。

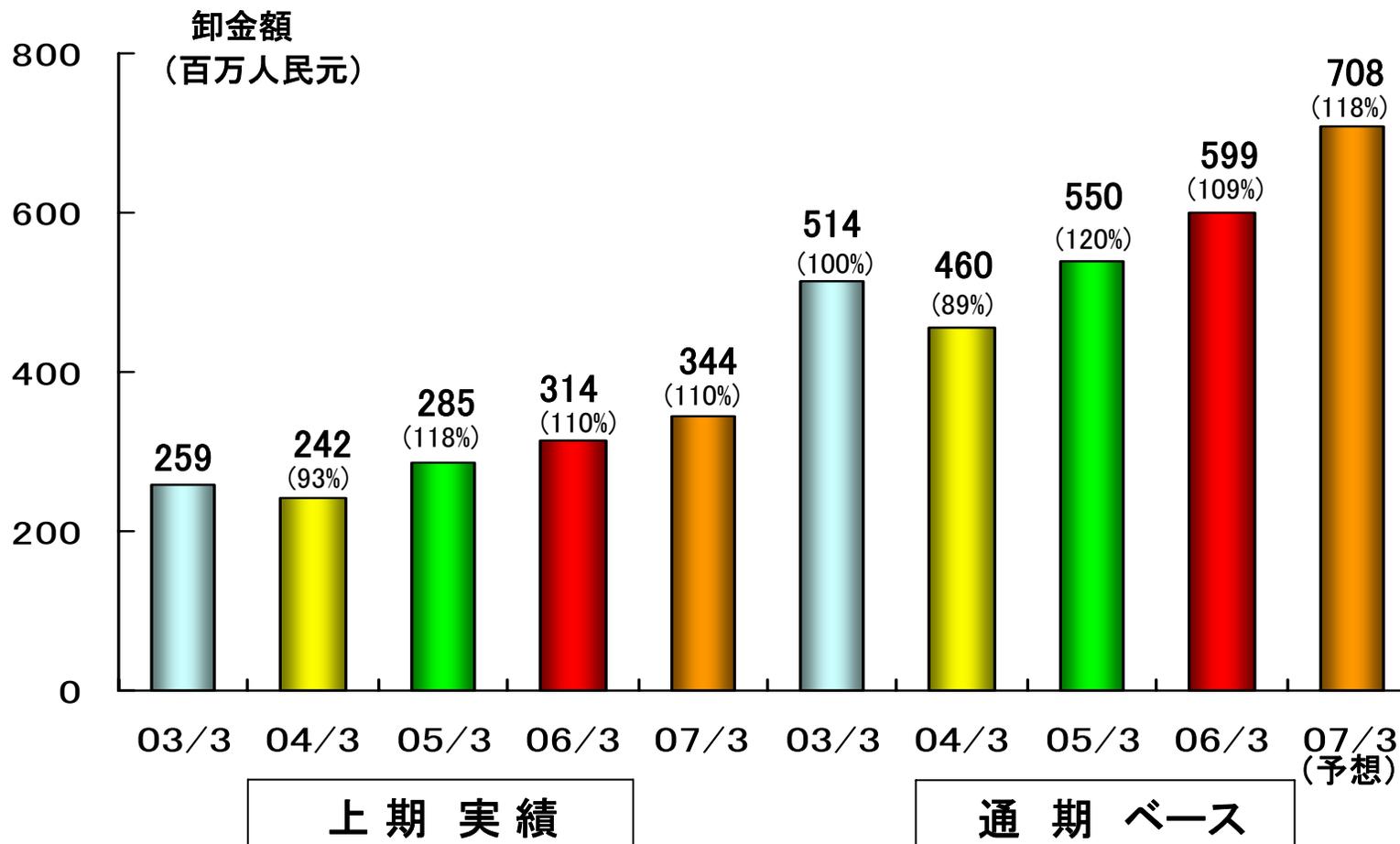


()内は前年同期比

中国市場のヤマハ楽器販売状況



中国経済は引続き高い成長を示すも、楽器市場での成長は限定的。ピアノは学校入札などで復調傾向にあり、ポータブルキーボードも新製品KB280/220の販売が好調、PAは対前年同期比119%と好調で、放送局から劇場用設備まで徐々に浸透。



()内は前年同月比

ホームシアター市場規模

(ホームシアターシステム+アンプ・レシーバー)

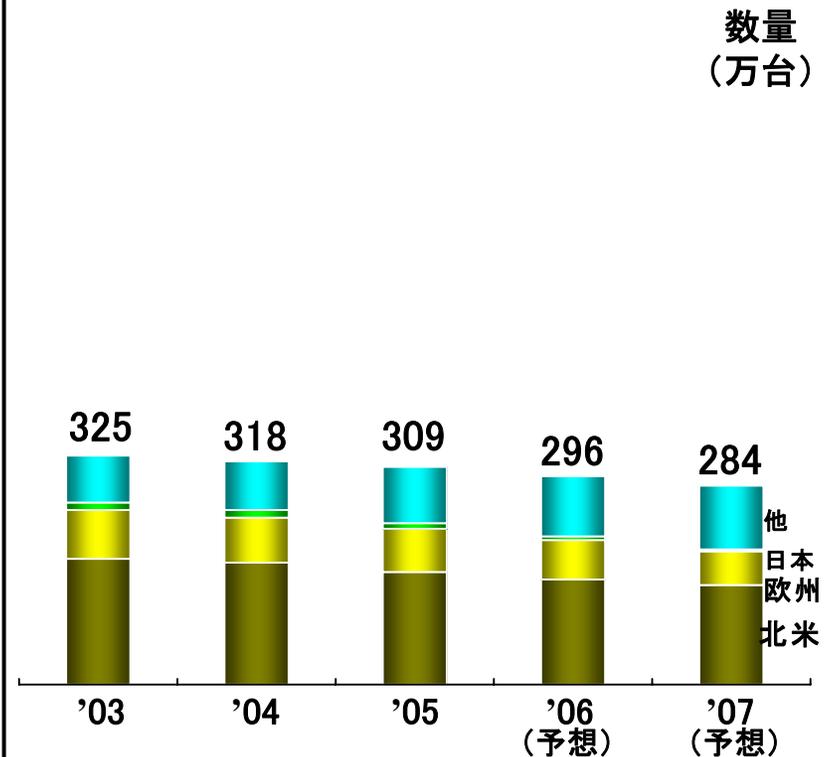
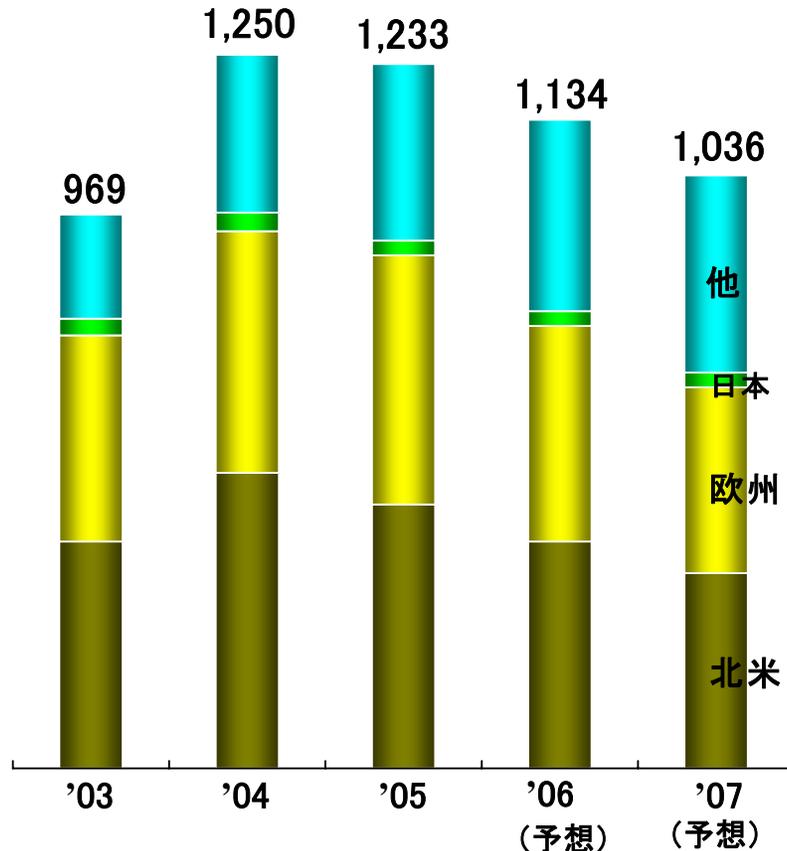


<ホームシアターシステム>

- ・市場規模は欧米中心に減少傾向 (06年予測 1,100万台 07年予測 1,000万台)
- ・北米: DVD内蔵型もHTiBも年率10%超の減少
- ・欧州: 9割を占めるDVD内蔵型が減少の見通し
- ・日本: 05年以後、年間約2万台の減少を予測(07年見通し23万台)
- ・アジア、中・東欧市場は引続き 3%程度の成長

<AVアンプ・レシーバー>

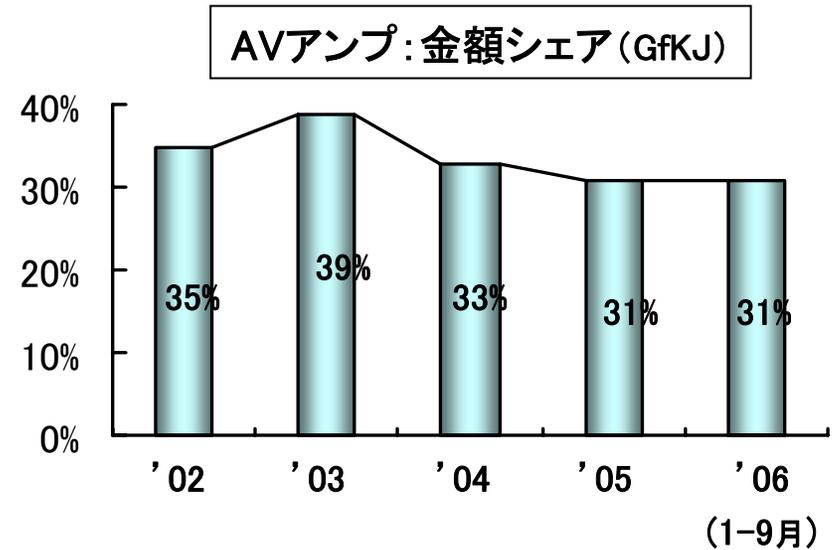
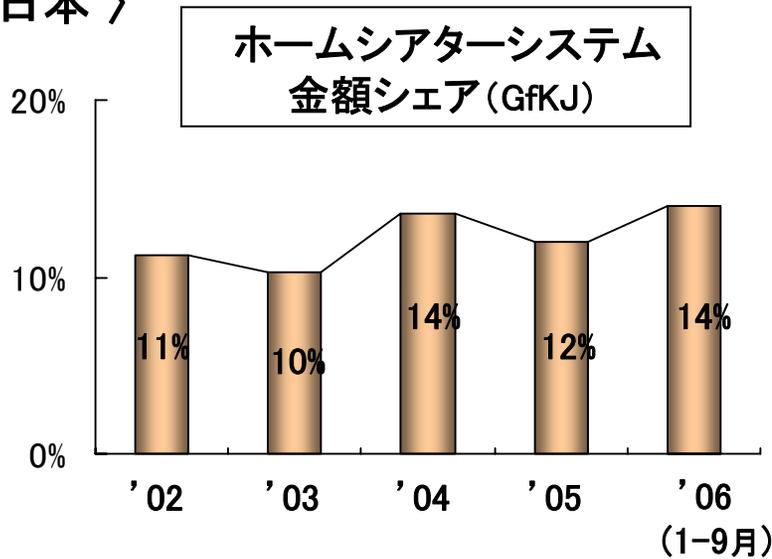
- ・全世界では年率約4%市場縮小
- ・欧米: 市場は縮小傾向。米国市場は足元回復傾向見られるものの中期では漸減傾向。欧州は今後年率10%程度の減少を予測
- ・日本: 06年は対前年23%減少見通し。一方で、純粋に音楽を楽しむ層拡大
- ・アジア、中国、東欧、ロシアは低価格品中心に市場拡大



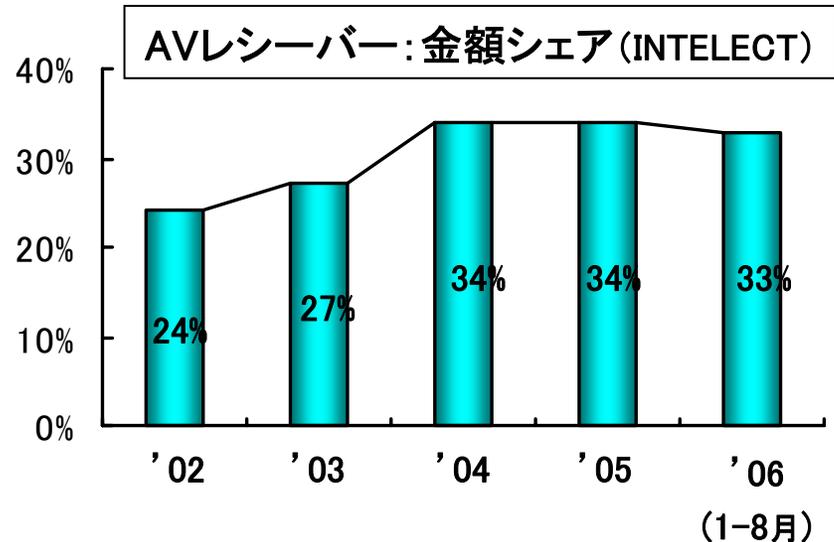
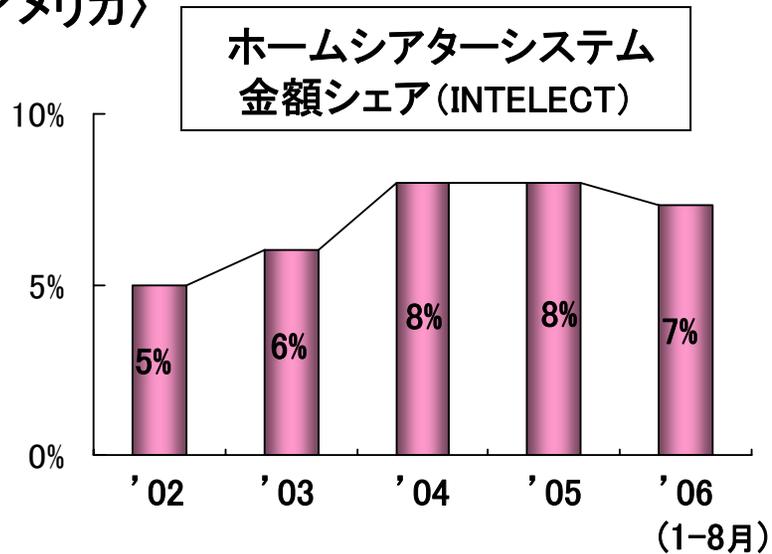
AV マーケットシェア



〈日本〉



〈アメリカ〉



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。